

風水害にご用心！

大雨による災害の多くは、狭い範囲に短時間の強い雨が集中して降ることにより発生します。

これからの梅雨の時期や台風シーズンによく発生します。自分のところでは晴れていても、ほんの数km離れたところでは災害の発生するような大雨が降っていることもあります。また、遠く離れた河川の上流で降った雨が下流に洪水をもたらすこともあります。いつ自分のところに災害が及ぶかわかりません。

総合的な情報の把握と、日頃からの「災害への備え」が大切です。

○風水害に備えよう

- ・窓や雨戸はしっかりとカギをかけ、必要ならば外から板を打ち付けて補強する。
- ・側溝や排水口は掃除して水はけを良くしておく。
- ・危ない場所には近づかない。
- ・風でとばされそうな物は固定するか、風の当たらないところに収納する。
- ・雨戸をおろしたり、割れたときのガラスの飛散を防ぐためにガラス窓にテープを貼ったりする。
- ・外からの飛来物の飛び込みに備えてカーテンやブラインドをおろしておく。
- ・学校や公民館など、避難場所として指定されている場所への避難経路を確認する。
- ・非常用品をまとめて、持ち出し袋などに入れておく。
- ・危険を感じた時や、避難勧告等が発表された時は避難行動を開始する。



○心配になったら、すみやかに避難しましょう

避難するときに気を付けること

(1)動きやすく安全な服装で

ヘルメット等で頭を保護し、靴はひもでしめられる運動靴を。はだしや長靴は危険です。

(2)足元に注意

水面下は危険な場所(マンホール、側溝など)があるので長い棒などを杖代わりにして確認しながら歩く。

(3)単独行動はしない

避難するときは2人以上で。

(4)歩行可能な水深は、男性で70cm 女性で50cmが目安

(5)避難弱者(子供、高齢者、病人など)は背負う

高齢者や病人などは背負い、子供には浮き輪をつけさせるなど安全を確保する。



避難指示や避難所開設情報など重要な情報は、テレビ、ラジオ、防災行政無線、インターネットを通してお知らせします。災害は私たち1人1人が減災を心がけることで被害を少なくすることができます。

わかやま夏の交通安全運動 7月11日(火)から20日(木)までの10日間実施

運動重点は

- 子供と高齢者の交通事故防止
- 歩行中・自転車乗用中の交通事故防止
- 後部座席を含めたすべての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- 飲酒運転の根絶

交通マナーを守り、悲惨な交通事故を1件でも減らしましょう。

